

和泉に眠る幻の武家屋敷「伯太藩陣屋跡」を訪ねて -日本一の信太山盆踊りから伯太神社へ-

江戸時代、和泉には伯太藩の陣屋がありました。残念ながら陣屋や武家屋敷などは残っていませんが、その周辺を巡ってみましょう。知られざる「和泉の武士」の物語がそこかしこに眠っています。

① 栄久堂吉宗

戦前、創業者が大阪市天王寺区玉造で和洋菓子製造御「花徳」を創業。しかし、焼失して廃業。戦後、西淀川区の「栄久堂吉宗本店」(天保元年・1830年創業の老舗)で修業し、東大阪にて独立。昭和45年(1970)に和泉市で「和菓子舗 栄久堂吉宗」を開業して現在に至っています。「お伊勢さん菓子博2017」で「和泉なるさめ」が食料産業局長賞を受賞しました。

② 西植平街道碑

南王子村の西端の街道でした。大正時代に西田、植田、平松の三氏の世話で開通したので、その頭文字から「西植平」の名がつけました。その頃は街道より西側は田畑が広がっていました。すぐ隣に「左聖神社参道」の案内碑もあります。

③ 後鳥羽院歌碑

藤原定家の『御幸記』によると建仁元年(1201)10月6日に後鳥羽上皇が熊野御幸のさい、平松王子近くの行宮(平松御所)で宿泊したといます。そのさいに詠んだ「平松はまた雲深く立にけり明け行く鐘はなにはわたりか」の歌碑です。

④ 信太山盆踊り(放光池1号公園)

信太山盆踊りは、後白河院が平松王子に宿泊した際、村人が御前で踊りを舞ったのが起源といい、『御幸記』にも「次平松王子、於王子殊有乱舞沙汰」(次に平松王子、この王子に於いて殊に乱舞の沙汰あり)の記述があります。戦前は2000名以上が三日三晩、踊りぬぎ、昭和8年(1933)9月1日号の『阪和ニュース』では「正に日本一の信太山盆踊り」という見出しで紹介されました。阪和鉄道は終日運行し、日本全国各地から見物客が来るので、駅から会場の空池まで人の列が途絶えなかったといます。和泉市人権啓発協議会・歴史文化協会の銘板「信太山盆踊り」が放光池1号公園にあります。また公園西側に「平松王子跡」碑があります。熊野街道に向かう九十九王子の10番目の王子社です。平安時代には「蟻の熊野詣」と呼ばれるほど熊野参詣が流行しました。延喜7年(907)に宇多法皇が御幸し、白河上皇9度、鳥羽上皇21度、後白河上皇34度、後鳥羽上皇28度の御幸記録があります。その後、下火になりますが、江戸時代に入って元和5年(1619)、紀州藩主・徳川頼宣が熊野三山復興に力を入れ、庶民の間で熊野参詣が流行しました。



⑤ 石燈籠(放光池1号公園)

放光池の堤防、道の西側にあったもので、昔は大阪湾の航行する船に現在位置を知らせたといわれています。約300年前のものと推察されています。

⑥ 伯太藩陣屋跡

伯太藩1万3000石の藩庁跡です。歴代藩主は徳川譜代の三河渡辺氏。徳川十六神将で「槍半蔵」と恐れられた渡辺守綱の一族で、遠祖は羅城門の鬼退治で有名な渡辺綱になります。陣屋の「搦手門」は堺市豊田の小谷城郷土館に移築、現存しています。

⑦ 旧伯太藩武家屋敷碑

伯太藩は武家として小藩ながら、優秀な人材を輩出しています。例えば代官・伊庭正人の長男の伊庭貞剛。藩の飛び地の西宿村(現・近江八幡市)で生まれ、御所警備隊、司法少検事などを経て大阪上等裁判所判事に。しかし明治新政府に失望して、母方(北脇家)の叔父で住友総領事・広瀬宰平の勧めで住友に入社しました。第2代住友総理事となって、荒れた別子銅山に植林し、その管理のために住友林業を設立。足尾銅山鉱害を追及していた田中正造も「我が国銅山の模範」と認め、企業の社会的責任の先駆として高く評価されています。また家老・小林家の子息・小林有也は東京物理学講習所(現・東京理科大学)創立者の一人です。長野県・松本中学校長に赴任すると、寄付を集めて荒れ放題で傾いていた松本城天守閣の大修理を実施。松本城は現存し、国宝です。また家老・今井家の子孫には俳優・歌手の西田敏行がいます。

⑧ 伯太神社

社伝では飛鳥時代の白鳳2年(674)創建といわれています。御祭神は伯太比古命・伯太比売命などです。百済系渡来人と推測されている田辺氏の祖霊であり、奈良時代の田辺史(ふひと)は、藤原不比等を養育したといわれています。「史」は「書人」(ふみひと)が転じたものとされ、書記を派出した一族なのかも知れません。また小竹祝丸、天野祝丸を祀っていますが、この2人は『日本書紀』に登場します。神功皇后が忍熊王の乱で紀伊に入ると何日も夜が続き、そこで知患者

の豊耳に尋ねると、小竹(しの)の祝(はふり=神官)が病死して、嘆き悲しんだ「善(うわしき)友」の天野の祝が後追い自殺し、合葬され、その「阿豆那比(あずない)の罪」が原因といわれています。そこで墓をわけると変事は収まりました。この2人は実は同姓愛者で、これは日本最古の男色の記述であると『国史大辞典』などでは記されています(諸説あります)。

⑨ 伯太薬師堂五輪塔

大阪府指定有名文化財。高さ約1.3メートルで、鎌倉時代中期のものと考えられています。700年以上、地域住民の信仰の対象であり、まさに伯太の歴史の生き証人です。

⑩ 西光寺白蓮

元禄6年(1693)9月、大和国柳本藩(天理市)の専明院より聞了法師が蓮を持参し、「西光寺白蓮」として伝わっています。柳本藩主は織田有楽斎(信長の弟)の一族で、歴代藩主・織田公が遺愛した蓮といわれています。

⑪ 和泉市人権文化センター資料室

「葛の葉伝説」「小栗判官伝説」「信太山盆踊り」など和泉の歴史、文化、人権、民俗に関する資料室です。

[入館料]無料 [開館時間]10:00~18:00 [休館日]月曜日(祝祭日の場合は開室)、休日(祝祭日)の翌日、年末年始、臨時休業期間 [電話・FAX番号] 0725-47-1560

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いづみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和2年(2020)12月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用してください。

プロデュース|陸奥賢[観光家/大阪まち歩き大学学長] コーディネーター|宝楽陸寛[NPO法人SEIN/コミュニティLab所長] イラスト&マップ制作|田中保帆 協力|いづみ市民大学観光おもてなし学科受講生(はるバンド/藤間健/森井豊) この印刷物は、1,000部印刷し、印刷単価は一部28円です。

和泉の文化芸術の殿堂！久保惣記念美術館へ

～伏屋一族、国学の祖・契沖の足跡を辿りながら～

和泉中央界隈はニュータウンとして大発展を遂げていますが、実は古墳時代の遺跡や江戸時代の大庄屋の墓など、古い歴史や文化を伝えるオールドタウンだったりします。それらを巡りながら、桃山学院大学、いずみの国歴史館、久保惣記念美術館など、和泉の学問、文化、芸術を体感しましょう！

⑥いずみの国歴史館

和泉市の国史跡である池上曾根遺跡や和泉黄金塚古墳、泉北丘陵窯跡群(陶邑)、貴重な古文書や絵図などの歴史的資料、文化財の調査研究や展示公開を行っています。本物を見せることにこだわり、復元模型を置かないといった試みを行なっていて、弥生時代や古墳時代の土器(本物)に触れる体験コーナーや、関連書籍を集めた資料学習室もあります。館のロビーにある日本最大級の須恵器の大甕(近隣の窯跡より出土)も見ものです。

[開館時間]午前10時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで) [休館日]月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土日の場合は開館)、年末年始、その他展示入れ替え期間(不定期) [入館料]無料(特別展は有料の場合あり) [お問い合わせ]0725-53-0802(電話)

⑦唐国池田山六・九号墳

平成4年(1992)に街開きした住宅・産業都市「トリヴェール和泉」(和泉中央駅界隈)の造営工事中に発見された古墳で、宮ノ上公園に石室が移築されました。左が六号墳で右が九号墳です。須恵器の壺や高杯、鍬や小刀の鉄製武器、管玉などの装身具が出土しました。

⑧内田春日大社

内田村(現・内田町)の氏神さまです。明治22年(1889)4月1日、和泉郡の寺田村、箕形村、唐国村、内田村が合併して和泉郡「北松尾村」が発足しました。名称の由来は松尾谷の北側に位置するので北松尾村なのですが、中世、松尾谷の一角は奈良春日大社の荘園でした。これは長寛2年(1164)に藤原忠通(ただみち)の子・九条兼実(かねざね)が父の供養のために春日大社や興福寺に寄進したのが始まりといわれています。その由縁で松尾谷界隈は春日神社が多いエリアとなっています。

⑨和泉市久保惣記念美術館

内田町で代々、綿業を営み、泉州有数の企業となった「久保惣」(久保惣株式会社)の代表・三代久保惣太郎(1926～1984)氏が代表して、初代久保惣太郎氏、歴代の代表者が収集してきた古美術品約500点と土地、建物(本館、茶室)、基金3億円を和泉市に寄贈し、昭和57年(1982)に開館しました。現在は所蔵品数も増えて、約11000点(国宝2件、国重要文化財29件を含む)となっています。とくに宮本武蔵の筆による重要文化財「枯木鳴鶴図(こぼくめいげず)」は有名です。また美術館西側に隣接する公園内には和泉市名誉市民の久保恒彦氏顕彰碑があります。恒彦氏は久保惣五代目代表(三代惣太郎の弟)で、和泉市久保惣記念美術館の名誉館長として文化芸術振興に尽力し、さらに産業団地「テクノステージ和泉」を推進し、産業振興の面でも多大な功績を残しました。

⑤桃山学院大学

明治初期に來日した英国人宣教師ワレン師(1841～1899)は大阪・川口居留地で伝道活動を行いました。明治17年(1884)には聖三一教会に三一小学校と三一神学校を開設し、これが桃山学院のルーツです。明治23年(1890)、高等英学校を設立し、現在の天王寺区筆ヶ崎町(桃山界隈)に移転。その後、明治28年(1895)に桃山学院と改称しました。明治35年(1902)には大阪で最初の私立中学校として桃山中学校を開校。大正時代には、のちのニッカウキスキー創業者で「日本のウイスキーの父」と呼ばれる竹鶴政孝が一時期、化学の教員として雇われています。これは竹鶴の妻リタが桃山中学校校長のローリングス師の夫人と親しく交流していたことがきっかけでした。戦後の昭和34年(1959)にはプロテスタント日本宣教100周年を記念して桃山学院大学を開学。平成7年(1995)にキャンパスを和泉市に移転しました。

①和泉シティプラザ

平成15年(2003)にオープンしました。客席数664席を有する『弥生の風ホール』をメインに市立図書館や生涯学習センターなどが入居する公共複合施設です。和泉市民の学習意欲の醸成、活力ある地域社会の実現とまちづくり活動を担う人材育成として『いずみ市民大学』も設置されています。

②伏屋一族の墓(石尾墓地)

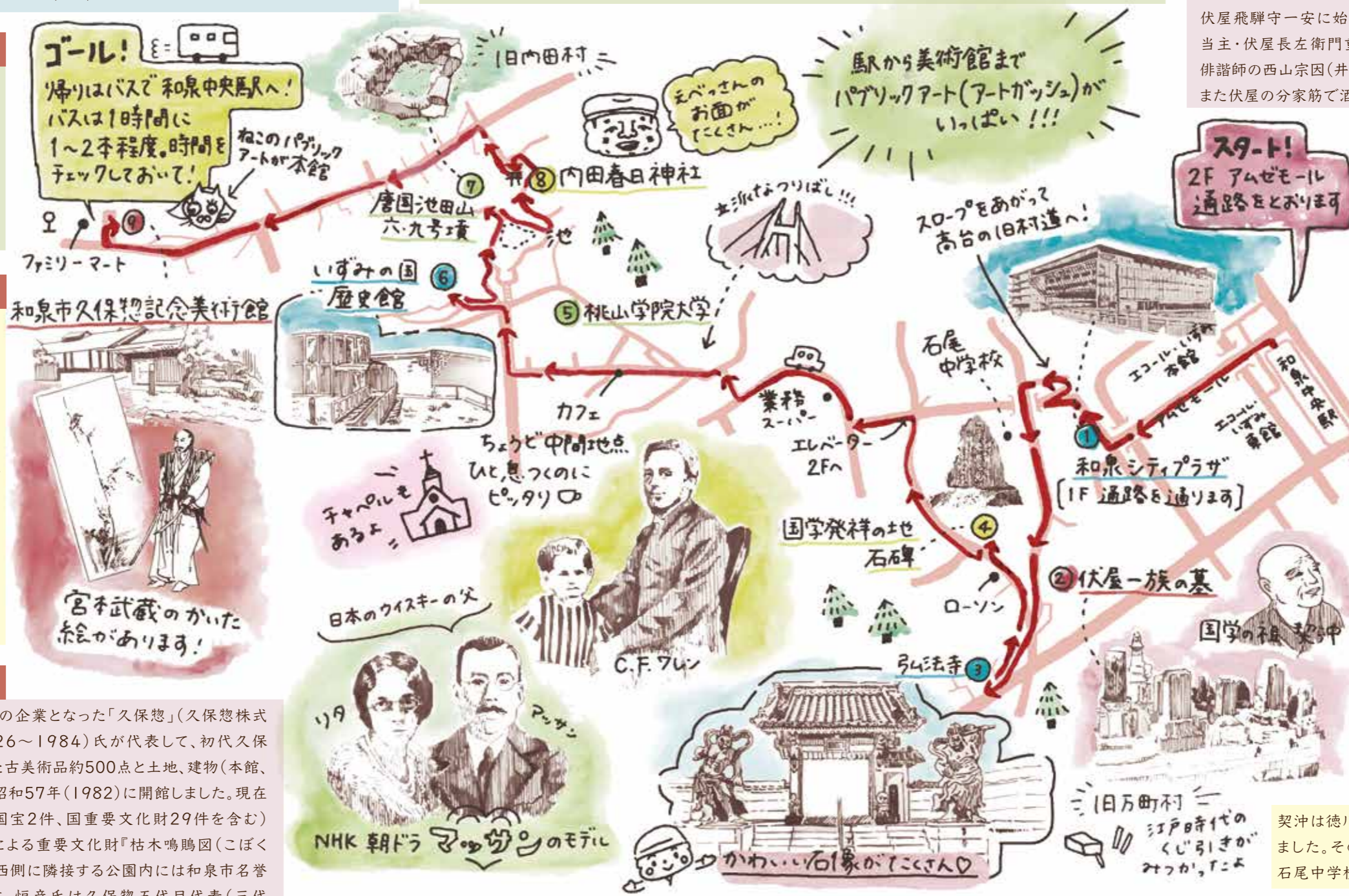
代々、万町村の庄屋を務めた伏屋(ふせや)一族の墓があります。太田亮『姓氏家系辞書』によれば伏屋一族は豊臣秀吉の家臣であった伏屋飛騨守一安に始まるといいます(諸説あります)。17世紀後半の当主・伏屋長左衛門重賢(1638?～1693)は文人としても知られ、俳諧師の西山宗因(井原西鶴の師匠)と交流して高野山を案内しました。また伏屋の分家筋で酒造業を営んでいた伏屋重寓の養子に入ったのが伏屋素秋(1747～1811)で、漢方医から蘭学医となり、腎臓に墨汁を注入する実験で腎臓の機能が濾過作用であることを解明しました。伏屋一族は江戸期の和泉を代表する名士・名族といえるでしょう。

③石尾山弘法寺

高野山真言宗の寺院で、山号は「石尾山」といいます。寺では「禪尾山」「松尾寺」と共に「泉州の三尾」と呼ばれ、大同年間(806～810)に弘法大師・空海が禪尾山登頂の際に道場として開創され、弘仁年間(810～824)に地元豪族の伏屋長者の寄進によって一宇が建立されたといわれています。また脇仏の地藏菩薩は「福德地藏」と親しまれ、このお地藏さまの功德で万金を持つ長者が大勢、当地に住み、これが「万町村」の名の由来となったという言い伝えもあります。

④国学発祥の地碑

江戸時代中期の真言宗僧侶・契沖(1640～1701)は一時期、万町村の庄屋・伏屋重賢屋敷内にあった「養寿庵」に寄寓していました。契沖の祖父は加藤清正の家臣であり、伏屋一族も秀吉の家臣の子孫であったといわれて、親交があったのかも知れません。契沖は伏屋が所蔵する膨大な和漢書を読み、梵語(サンスクリット語)の研究を深めたといわれています。その後、契沖は徳川光圀公の依頼を受けて『万葉代匠記』を執筆しました。その偉大な業績から『国学の祖』と褒め称えられ、石尾中学校前に記念碑が建立されています。



[開館時間]午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)
[休館日]月曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館)、陳列替期間
[お問い合わせ]0725-54-0001(電話)

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いずみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和2年(2020)12月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用してください。

プロデュース|陸奥賢[観光家/大阪まち歩き大学学長] コーディネーター|宝楽陸寛[NPO法人SEIN/コミュニティLab所長] イラスト&マップ制作|田中保帆 協力|いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生(系瀬友子/駒澤重信/Toshiko.A/MicKey/むらかみあきら/山出弘)

和泉そぞろ

Izumisozoro

和泉府中を彩る伝説の女傑たち

-神功皇后伝説から和泉式部、赤染衛門、桑原のおばあさんまで-

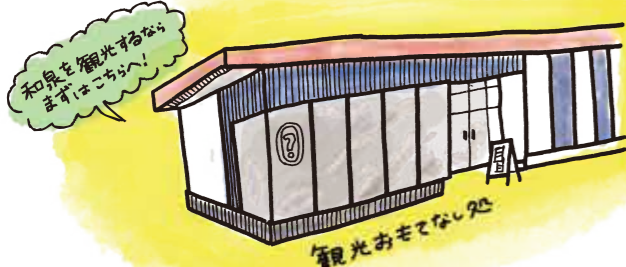
和泉国の中心として栄えた府中。平安時代を代表する天才女流歌人の和泉式部と赤染衛門が当地を訪れています。和泉国の国名の由来となった和泉清水は神功皇后の伝説から。また雷井戸も桑原のおばあさんが由縁。和泉の女傑たち(!?)の物語に触れるまち歩きです。

①和泉市いずみの国観光おもてなし処

和泉市の観光情報・地場産品を揃えています。

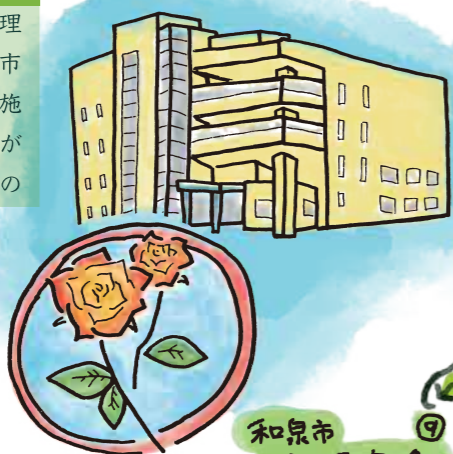
[時間]10時~18時 [休日]月曜日(祝日の場合は翌日)

[電話番号] 0725-40-5552



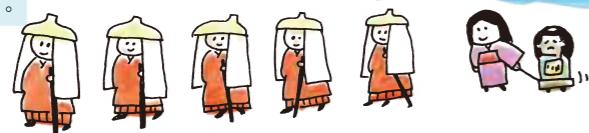
⑨和泉市コミュニティセンター

多目的ホールをはじめ、会議室、和室、調理室、運動室、創作活動室、視聴覚室など、市民の交流の場や生涯学習の拠点となる施設です。センター前には「アンネのバラ」が植樹されています。『アンネの日記』作者のアンネ・フランクの短い生涯を悼み、愛と平和を願うアンネの形見として生まれて、平和教育の実践として世界中に植樹されています。



⑧井ノ口王子跡

熊野古道九十九王子の跡です。本来の井ノ口王子は石碑付近の北側にあったといいますが、明治時代に遷され、泉井上神社に合祀されました。和泉市内には9番目の篠田王子、10番目の平松王子、11番目の井ノ口王子があります。



⑦横尾川

和泉市横尾山町の横尾山西麓付近を源流とし、和泉市内を北上し、大津川に合流し、やがて大阪湾に出ます。古代は横尾川(大津川)を北上していくと、そこには和泉国府の外港である「小津の泊」(泉大津界限)がありました。紀貫之『土佐日記』でも小津の泊の記述があります。江戸時代にも川舟が行き来していたといわれています。

⑥桑原集落

桑原集落は横尾川も近く、水路が今もあります。川舟から直接、民家に入る護岸の階段などもあって見ものです。

②泉井上神社

社伝によれば神功皇后が仲哀天皇2年(200?)に当地に行啓した時に、急に泉ができ、清水が湧き出したので、それを瑞祥として喜び、霊泉として祀ったといわれています。これが「和泉」の国名の由来といわれています。大阪府指定史跡の「和泉清水」は「国府清水」とも呼ばれ、農業用水として使われました。また甘露として知られ、豊臣秀吉も大坂城に運ばせて、茶の湯に用いたといわれています。

③和泉五社総社

神功皇后ゆかりの霊泉伝説の地!



③和泉五社総社

元正天皇の霊龜2年(716)、河内国に珍努宮(ちぬのみや)を造営し、同国の大鳥、和泉、日根の三郡をさいて特別行政区画の「和泉監(いずみのげん)」が当地に置かれました。珍努宮には元正天皇(717年、719年)や聖武天皇(744年)が行幸していますが、所在地は不明です(比定地として府中や葛の葉町大園遺跡説があります)。その後、孝謙天皇の757年(天平宝字元年)に「和泉国」となり、府中は地方行政の中心地となりました。それに伴って和泉国内にあった五大社の大鳥、穴師、聖、積川、日根が勧請されました。現在の本殿は慶長10年(1605)に豊臣秀頼が片桐且元を奉行として再建したと伝えられるもので国の重要文化財に指定されています。

④和泉国府廳跡の碑

御館山児童公園の一角にあります。「府中」の地名は和泉国府が当地に置かれていた事に由来します。長保元年(999)に和泉守になった橘道貞の妻が、あの「和泉式部」(天元元年・978?~没年不詳。本名不詳。和泉式部は通称で夫の任国と父の官命をあわせたものです)です。しかし夫婦仲は悪く、離縁し、和泉式部は冷泉天皇の第三皇子・為尊親王や、その弟の敦道親王と熱愛しました。藤原道長からは「浮かれ女」、同僚女房の紫式部からは「恋文や和歌は素晴らしいが素行には感心できない」と評されています。しかし情熱的な恋歌は大歌人・藤原任次に賞賛され、女流歌人の赤染衛門と並び称されました。百人一首「あらざらむ この世の外の 思ひ出に 今ひとたびの 逢ふこともがな」は有名です。また赤染衛門(956?~1041?)も息子の大江拳周(たかちか)の和泉守任官に尽力して成功させました。百人一首は「やすらはで 寝なましものを さ夜ふけて かたぶくまでの 月を見しかな」。奇しくも恋歌の名手として知られる女流歌人2人が和泉国に関わっています。

⑤無量山西福寺(雷井戸)

寺伝では鎌倉時代初期に東大寺再建に尽力した俊乗房重源上人が中興の開基といわれています。また伝説によると重源上人が当地で雨乞いの儀式をしていると、本堂隣の井戸でおばあさんが洗濯をしていました。すると雨乞いの効果で井戸に雷が落ちたのですが、なんとおばあさんは鹽(たらい)で井戸に蓋をして雷神を閉じ込めました。そして雷神は「もう2度と桑原には落ちない」と約束するので、おばあさんは逃がしてやりました。以後、「クワバラ、クワバラ」と唱えれば雷は落ちないとされ、日本全国各地でその風習が続いています。



まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いずみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和2年(2020)12月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用ください。

プロデュース|陸奥賢[観光家/大阪まち歩き大学学長] コーディネーター|宝楽陸寛 [NPO法人SEIN/コミュニティLab所長] イラスト&マップ制作|田中保帆 協力|いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生(izmyuOKAZAKI/さや鼻/多田ひとみ/HOSOKAWAyoutoku) この印刷物は、1,000部印刷し、印刷単価は一部28円です。